

進路指導部便り

令和8年9月29日
第4号
東京都立七生特別支援学校長
黒澤 一慶

秋分を過ぎ、朝夕には秋の気配が感じられる頃となりました。夏季休業中におきましては、夏季進路先見学の御参加ありがとうございました。今回の進路指導部便りでは、夏季休業中に行った「夏季進路先見学」、1学期に実施した「高等部2年生インターンシップ」、卒業後に行う「定着支援」についての報告をお届けします。また、裏面では、キャリア教育の指導事例（小学部）についての情報もお届けします。ぜひご覧ください。

夏季進路先見学

夏季休業中、保護者の方を対象に進路先見学を実施しました。本見学は、企業、福祉事業所、グループホーム等の活動内容や雰囲気を知り、今後の進路選択の一助としていただくことを目的に、3年前より始めたものです。

4年目となる今年は、11の事業所に御協力いただき実施いたしました。より多くの御家庭に御参加いただけるよう、各家庭2カ所までとさせていただきます。今年度もたくさんの御応募をいただきました。

参加された御家庭からは、次のような感想をいただいております。

「分かりやすく丁寧に、事業所のことや活動内容のことなど教えていただき、ありがたかったです」
「小学部在学中ですが、これからのことを想像したり知れたのでとてもよい機会になりました」
「企業を目指すことへのハードルの高さを痛感しましたが、身が引き締まりました」
「事業所を利用されている方が生き生きと働いている姿を直接見ることができてとてもよかった」

このように多くの保護者の方から前向きな御意見をいただきました。来年度以降も、より多くの方に機会を提供できるよう引き続き夏季進路先見学を実施してまいります。

高等部2年生インターンシップ

6/15～7/9の期間で高等部2年生はインターンシップを行いました。通勤・通所を含め、事故やけがなく、安全にインターンシップを終えることができました。これは、生徒たちが事業所のルールや約束を守り、職員の方々の指示を聞いて行動できた結果だと考えています。

社会に出て仕事をしたり生活をしたりする上で、安全に活動することは大切な力の一つです。それぞれの場所で求められるルールやマナーを実践できたことは、大きな学びになったと思います。

今回のインターンシップでは、1年次とは異なる業種や職種での体験に挑戦しました。「自分に合わないかもしれない」と感じた生徒もいれば、「仕事に就きたい」と感じた生徒もあり、実習を通して得た感想や気付きは一人一人様々でした。

「合う」「合わない」という気付きは、自分自身の進路を考える上で大切な経験です。仕事内容や職場の雰囲気、働くために必要な力などについて振り返りながら、なぜそう感じたのかを整理し、2学期から始まる現場実習での進路選択につなげていきます。

卒業生定着支援

卒業生の定着支援は、例年夏季休業中に実施しています。定着支援では、卒業後3年間、進路先の事業所に訪問等を行い、卒業生の様子を把握していきます。

必要に応じて感染症対策をしながら、訪問を基本として実施しました。夏季の訪問では、環境への適応や仕事等の取組みの様子を見て、事業所の職員の方とそれらについて確認してきました。本人や事業所が困っている等の状況があった際は、必要な支援について一緒に考え取り組んでいます。

キャリア教育の視点事例（小学部編）

本校では、児童・生徒の将来の社会参加と自立に向けて、日々の学習や生活の中で「キャリア教育 指導の視点」を活用しています。今回は小学部か係活動での例を紹介します。

活動例 「毎日の係活動」

活動の流れ	『キャリア教育 指導の視点』のポイント
1. 自分の係を確認する 掲示や係分担表などを見て、自分の仕事を確かめる。	★自分で確認し、自ら取り組む ⇒④「毎日の係仕事を自分から行い、報告する」 「自分の役割を最後までやりとげる」
2. 開始の報告をする 「係の仕事をします。」「ごみ捨てに行ってきます。」など、教員に伝える。	★開始・終了時に報告する ⇒④「毎日の係仕事を自分から行い、報告する」
3. 係活動をする ごみ箱を持ってゴミステーションに行ったり、牛乳パックをリサイクルできる形にちぎったりする。	★一人で移動し、戻る ⇒②「大人の見守りで、短い距離を一人で歩けるようにする」
4. 終了の報告をする 教室に戻ってきたり、仕事が終わったりしたら「戻りました。」「終わりました。」と教員に伝え、係分担表に花丸を付ける。	★役割を果たし、達成感を得る ⇒④「自分の役割を最後までやりとげ、達成感を味わえるようにする」/「できたことを仲間の中で認められるようにする」

『キャリア教育 指導の視点』より

※「キャリア教育 指導の視点」②④抜粋

	ステップⅠ（小低）	ステップⅡ（小高）
②基本的な生活習慣を身に付けられるようにする（含・移動の自立）	目的地まで、大人と一緒に安全に歩けるようにしましょう。交通利用の経験をしましょう。	大人の見守りで、短い距離を一人で歩けるようにしましょう。 信号を見ることが傘を使うこと、交通機関の利用にも慣れましょう。
	外食や遊具遊びなどを楽しみに、歩いたり、公共交通機関を利用したりして出かける機会を設定する。 校内移動なども練習の機会とする。	一人通学を目指し、徒歩での短い独り歩きや、傘、交通機関の利用、マナー等の経験や学習を積み重ねる。

	ステップⅠ（小低）	ステップⅡ（小高）
④自分の役割を果たせるようにする	・大人と一緒に、簡単な係仕事をしましょう。 ・順番を待てるようにしましょう。 ・がんばってほめられる経験をたくさんしましょう。	・毎日の係仕事を自分から行い、報告するようにしましょう。 ・自分の役割を最後までやりとげ、達成感を味わえるようにしましょう。
	・ごみすて、日直（挨拶係）、もの運び等の簡単な係仕事を用意し、できたときにたくさんほめる（花丸カード、好きな遊び等も含む）ようにする。	・日常生活の指導や学習の中で、係や役割活動をたくさん入れ、できたことを、仲間の中で認められるような工夫をする。

小学部での係活動は、将来の「働くこと」だけを目的としたものではありません。自分の役割を知る、相手に伝える、最後まで取り組む、認められて自信をもつという経験を重ねることで、将来の社会参加と自立につながる基礎を育成しています。御家庭や福祉園でも、キャリア教育の視点を取り入れた手伝いや役割活動などに取り組んでいただくことで、子供たちの自信や主体性を育むことにつながります。

キャリア教育指導の視点の活用について、中学部や高等部での取組も、今後の進路だよりで順次紹介していく予定です。